

生存科学研究ニュース

Vol. 13. NO. 5

1998. 11. 10 発行

発行 財団法人 生存科学研究所

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1

電話 03-3563-3518

平成10年度第2回

21世紀医療システム研究会

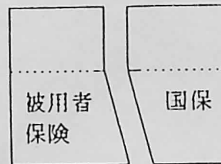
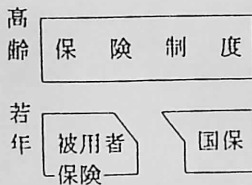
報告者 江見 康一

平成10年9月7日(財)医療経済研究機構第4回シンポ「21世紀の高齢者医療を考える—その費用負担と診療報酬を中心に—」が開かれ、日本医師会、健保連、日本労働組合総連合、京都府園部町長、西村周三氏がそれぞれの立場で提案し、そのあと、社会保障制度審議会会長の宮沢健一氏の講演が行われた。

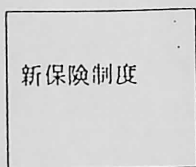
本研究会では、各立場の案を紹介して、相互に比較考量したが、基本的には次の4つの案に集約されよう。

基本的仕組み

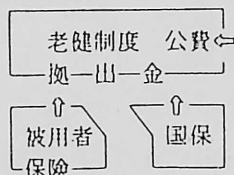
- I 案) 高齢者のみの医療保険制度 II 案) いわゆる「突き抜け方式」



- III 案) 高齢・若年統合 (地域保険等)



- IV 案) 老健制度基本維持



以上の4案のうちⅢ案は、京都府園部町長案であるが、具体的中味はなお、明確でないのに対し、日医総研案は、新たに「独立した高齢者医療保険制度」の創設を提案し、A案とB案の2案を示した。

日医A案：保険者は都道府県

被保険者を65才・70才・75才以上のいずれかの高齢者とする
財源は保険料と公費で折半とし、若年者負担は、介護保険料と同じ方式

患者は定率1割負担とする

日医B案：高齢者医療・介護制度を中心とした構造改革とし、次のように要約される

- 保険と保障を明確に
- 高齢対策と少子対策を
- 医療、介護の統合

・ 高齢者医療制度 75才以上

保障を重点的
公費50~90%
+
自己負担

都道府県 包括制中心 老人保健

- ・一般医療保険制度 5～74才
(16～74才)

保険の原理 保険料 + 自己負担	現行保険者	出来高払 + 包括制	産業・学校保健
---------------------------	-------	------------------	---------

- ・乳幼児医療制度 0～4才
(0～15才)

保障を重点的 (公費100%)	都道府県	出来高払 + 包括制	母子・学校保健
--------------------	------	------------------	---------

注目されるのは、生涯の医療保障体系を3段階にし、乳幼児医療（0～4才）、一般医療保険（5～74才）、高齢者医療（75才以上）として、これら3段階の年齢特性に対応させて、財源、保険者、支払方式、医療特性の組み合わせを考え、それを整序したことである。とくに、75才以上の高齢者に対して、医療と介護を統合的に考え、1割の患者負担を除いて全額公費負担としたことは、画期的な提案といえよう。また乳幼児医療制度を一つの柱としたのは、近年の少子傾向に対して乳幼児の健全育成対策を考えてのことであろう。

高齢者を75才以上としたのは、それが後期老年期へ移行する節目で、増加する介護需要世代に、保険原理を適用しにくいということと、それによって国民健康保険の負担を軽減できるという期待があるからであろう。そして、5～74才の年齢層は、医療保険制度を通じる保険者の経営努力と、被保険者自らによる健康管理によって、制度の安定性を維持していこうという提案とみられる。

日医案は、今から30年前の武見執行部が唱

えた3本立て構想と一脈相通ずるものがあり21世紀へ向けての構造改革案として賛意を表わしたい。

問題は、このような改革案をどういう手順で実行に移していくかについて、より具体的なプログラムを提示することである。

研究会ではとくに国保の改革を含めて、この点の論議が活発に行われた。

第1回 生存科学研究会

報告者 卜部文麿

旧バイオサナトロジー学会臨時総会ならびに標記研究会が平成10年9月12日（土）大阪市、花博記念公園内「いきいき地球館」において行われた。

バイオサナトロジー学会から生存科学研究所の自主研究「生存科学研究会」への移行、発足にあたって、代表者、研究委員などの人選ならびに今後の研究実践内容の方向づけなどを確認した。

研究会代表は滋賀県立大学学長日高敏隆氏に、実務活動を担当する代表補佐は、大正大学教授（宗教学）藤井正雄氏と生存科学研究所常務理事卜部文麿氏に決定した。

また、近畿、北陸、中国の3カ所の支部の結成をはかる。支部活動については自主性を重視することと、生存科学研究所への連絡・報告をすること、などの意見が出された。

これまでの5年間は、故土屋健三郎前会長が常に言っておられた「医療ならびに死の問題ばかりを取りあげない」という基本方針があったが、近年の社会的関心からもこの問題を避けるのは困難であった。今後は、日高代

表のもとに、実践やフィールドワークを含めた研究活動を目指す方向が承認された。

総会終了後、体験学習研究会として、花博当時のまま公開されている「咲くやこの花館」(大温室)の総合プロデューサーをされた立花吉茂先生(咲くやこの花館顧問)のご案内で、約1時間半にわたり詳細なレクチャーを受け実地研修を行った。

この会でささやかなカルチャーショックを感じた。博覧会当時「花と緑の博覧会といいながら一体緑はどこにあるのだろう」といった声が内外の有識者から多く出たものだが、あれから10年近く経った現在、植樹された緑がようやく育ち、少しは公園らしくなってきた。緑化の難しさをつくづく感じたことだ。

生存科学講座



9月26日(土)午後1時より、平成10年度生存科学講座第2回講演会が「看ること・看られること」と題し、東海大学校友会館で開催されました。

講師に川崎病の発見者の川崎富作氏と上川病院看護部長の田中とも江氏をお迎えしました。

川崎富作氏はご自身が小児科医として、かつて勤務しておられた日赤病院時代のエピソード

などを交えながら「看ること」について、また、田中とも江氏は「自分達が将来、もし、ぼけてしまっても人間らしい生活をしたい」との考えから、患者の求める看護を実践しておられるが、その現場での様子を熱っぽく話されました。ついで、生存科学研究所常務理事の豊川裕之氏の司会で、質疑応答に入り、質問が活発に出されました。

今回は「親子のきずな・夫婦のきずな」をテーマに、下記のとおり開催いたします。多数の会員の皆様のご来場をお待ちしています。会員の方は、お手数ですが同封のはがきに出欠をご記入の上、11月13日までにご返送ください。

記

日時： 11月14日(土) 1時～4時

会場： 東海大学校友会館

霞が関ビル 33階

(次頁案内図参照)

聴講料： 会員 無料 ・一般 2000円

講師プロフィール：

*小林 登

国立小児病院名誉院長

甲南女子大学国際子ども学研究センター所長

小児科医

『子ども学』の提唱者

子どもをめぐる幅広い

ネットワークで活躍中



*春山 満

筋ジストロフィー発病

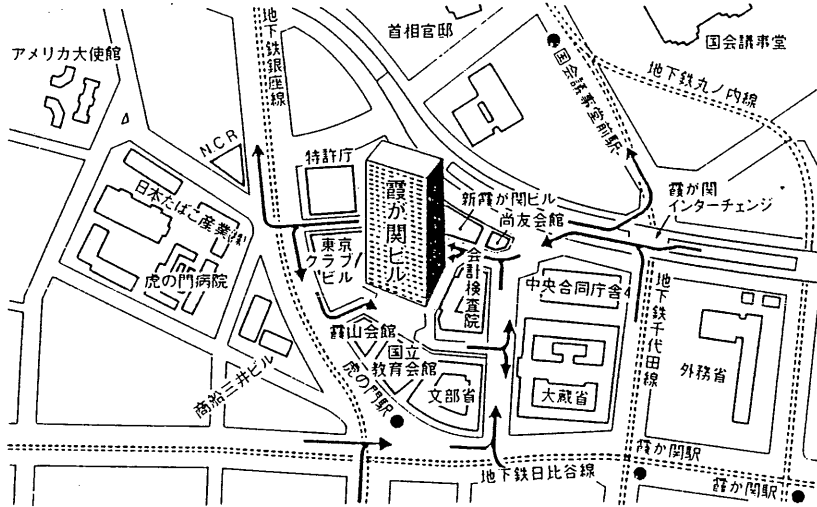
奥様と二人三脚で活躍

消費者側に立つ本物サ

ービスの提唱者



〈案内図〉



- 交通の御案内**
- 地下鉄銀座線虎の門駅より徒歩5分です
 - 地下鉄日比谷線・千代田線霞が関駅より徒歩7分です
 - 地下鉄丸の内線霞が関駅より徒歩8分です
 - 霞が関ビル駐車場完備

霞が関ビル33階 **東海大学校友会館** TEL 3581-0121

平成11年度事業計画案の募集

平成11年度の事業計画については広く会員の方々のご意見、ご提言を取り入れて、常務理事会において検討させていただくことになりました。つきましては、ご多忙中恐れ入りますが、次年度の事業計画についてご提案をお持ちの場合は、同封の事業計画の例をご参考に、是非、事業計画例の下段にご提案事項をご記入の上、平成10年11月30日までに当研究所にご郵送下さいませようお願い申し上げます。

研究所日報

- 9月10日 (木) 生存科学講座委員会
- 9月21日 (月) 第2回「21世紀医療システム」研究会
- 9月26日 (土) 生存科学講座
- 9月28日 (月) 編集小委員会
- 10月14日 (水) 生存科学講座打ち合わせ会